

※ 本コラムは、共同通信社より配信されたものです。

両立支援が判断材料に

株価の騰落率を分析

三菱UFJ投信は「三菱UFJ SRIファンド」という投資信託商品を、2004年から運用しています。仕事と家庭の両立支援と、性別・国籍などにとらわれず多様な人材を起用している企業を投資対象としています。グッドバンカーと共同開発した商品で、「ファミリー・フレンドリー」という愛称を付けて投資家に販売しています。

このファンドに組み込んでいる銘柄の株価の騰落率などを分析すると、両立支援や女性の登用などの面で上位と評価されたグループは、下位グループの実績を安定的に上回っています。しかもその格差は拡大する傾向にあります。

このことは、短期的な株価の変動を説明するものではありません。しかし長期的な観点で見れば、仕事と家庭の両立に対する企業の取り組みなどは、投資を判断する際の目安の一つになるでしょう。企業が将来も成長を続けられるかどうかという潜在力を示す指標としても役立つ可能性があります。

企業の株価は最近の利益や、業績見通しなどによって変動します。しかし財務指標とは一見、無縁に見える両立支援のような政策も、株価の騰落率などに関連しているように見えます。従業員の家庭での役割を尊重したり、女性が働きやすい職場をつくったりすることは、企業価値を高めるためのポイントになっているのかもしれませんが。

「三菱UFJ SRIファンド」は、長期にわたって企業評価と運用の実績を積み重ねていくことで、投資に新たな物差しを生み出す役割を担っています。企業と投資家が仕事と家庭の両立を考え、人材起用に関する理解を共有することは、これから一層重要になっていくでしょう。(株式会社グッドバンカー)